

聖霊降臨節第 18 主日礼拝  
2021 年 9 月 19 日 10:30  
日本基督教団 代々木上原教会 礼拝堂

司式: 中村吉基牧師  
奏楽: ヒムプレーヤー

前 奏

招 詞 イザヤ 60 章 1 節

起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り／主の栄光はあなたの上に輝く。

讃美歌 425 番(こすずめもくじらも)

聖書朗読

旧約聖書 詩編 50 編 7～15 節

7 「わたしの民よ、聞け、わたしは語る。イスラエルよ、わたしはお前を告発する。わたしは神、わたしはお前の神。8 献げ物についてお前を責めはしない。お前の焼き尽くす献げ物は／常にわたしの前に置かれている。9 わたしはお前の家から雄牛を取らず／囲いの中から雄山羊を取ることもしない。10 森の生き物は、すべてわたしのもの／山々に群がる獣も、わたしのもの。11 山々の鳥をわたしはすべて知っている。獣はわたしの野に、わたしのもとにいる。12 たとえ飢えることがあろうとも／お前に言いはしない。世界とそこに満ちているものは／すべてわたしのものだ。13 わたしが雄牛の肉を食べ／雄山羊の血を飲むとでも言うのか。14 告白を神へのいけにえとしてささげ／いと高き神に満願の献げ物をせよ。15 それから、わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。そのことによって／お前はわたしの栄光を輝かすであろう。

新約聖書 ローマの信徒への手紙 12 章 1～8 節

(聖書 新共同訳)

- 1 こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。
- 2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。
- 3 わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に分け与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。

- 4 というのは、わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、
- 5 わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。
- 6 わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、
- 7 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、
- 8 勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

(聖書協会 共同訳)

- 1 こういうわけで、きょうだいたち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を、神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたの理に適った礼拝です。
- 2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を造り変えていただき、何が神の御心であるのか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるのかをわきまえるようになりなさい。
- 3 私に与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。分を越えて思い上がることなく、神が各自に分け与えてくださった信仰の秤に従って、慎み深く思うべきです。
- 4 一つの体の中に多くの部分があっても、みな同じ働きをしているわけではありません。それと同じように、
- 5 私たちも数は多いが、キリストにあって一つの体であり、一人一人が互いに部分なのです。
- 6 私たちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っています。預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、
- 7 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に、教える人は教えに、
- 8 勧める人は勧めに専念しなさい。分け与える人は惜しみなく分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

祈 禱

説 教「与えられた恵みによって」

中村吉基牧師

祈 禱

讃美歌 451 番(くすしきみ恵み)

献 金

## 献 金

(礼拝当番による祈りに続いて「主の祈り」をささげましょう。)

天にまします我らの父よ。願わくは御名(みな)をあげさせたまえ。御国(みくに)を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も 与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦(ゆる)すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試(こころ)みにあわせず、悪より救いいただいたまえ。国と力と栄えとは、限りなく汝(なんじ)のものなればなり。アーメン。

祝 祷(派遣と祝福)(ご無理のない方はご起立ください)

後 奏

報 告

正義・平和・被造世界  
 こすずめも、くじらも

God of the sparrow  
 詞：Jaroslav J. Vajda, 1919-

ROEDER  
 曲：Carl F. Schalk, 1929-

1 こすずめも、くじらも、  
 2 おおなえ、おんじらい、  
 3 いらん、いらん、いらん、  
 4 りん、りん、りん、  
 5 いつ、い、い、  
 6 つの、つ、つ

そいらのほしりも、  
 らなびか十し字も、  
 くにうだひてのはか  
 へだいののかはなみ  
 あいでののはか  
 だいののはか

たをたたえてもうた  
 たににては和の  
 たたかいかお生  
 たすんやあき  
 えけししたる  
 てもさもえよ  
 うとさとにろ  
 たためげめなこ  
 うるようる

かか、  
 たか、  
 たか、  
 たか、  
 たか、

1-5 6  
 び。

\*6節に用いる (♩=116)

1 こすずめも、くじらも、<sup>そら ほし</sup>空の星も、  
<sup>つく</sup>造られた<sup>かた</sup>方を <sup>うた</sup>たたえて歌う。

2 <sup>おおじしん</sup>大地震も、<sup>あらし</sup>嵐も、<sup>いなひかり</sup>稲光も、  
<sup>つく</sup>造られた<sup>かた</sup>方に <sup>たす</sup>助け<sup>もと</sup>を求める。

3 <sup>なないろ</sup>七色に<sup>かがや</sup>輝く <sup>にじ</sup>虹と<sup>じゅうじ</sup>十字架、  
<sup>から</sup>空の<sup>はか</sup>墓<sup>み</sup>を見て、<sup>かんしゃ</sup>感謝<sup>ささ</sup>げよう。

4 <sup>う</sup>飢え、<sup>かわ</sup>渴き、<sup>やまい</sup>病と、<sup>ろうひ</sup>浪費<sup>よ</sup>の世に、  
<sup>つく</sup>造られた<sup>かた</sup>ものは <sup>もと</sup>いやし求める。

5 <sup>りんじん</sup>隣人と<sup>てき</sup>敵との <sup>へ</sup>へだてはなく  
<sup>かみ</sup>神は<sup>あい</sup>愛と<sup>へいわ</sup>平和 <sup>あた</sup>お与え<sup>もと</sup>になる。

6 <sup>よ</sup>いつの世も<sup>あ</sup>おられる <sup>あい</sup>愛の<sup>かみ</sup>神は、  
<sup>みらい</sup>未来の<sup>せだい</sup>世代の <sup>い</sup>生きる<sup>よろこ</sup>喜び。

詩104：30、148：5-12 マタ5：45、10：29-31  
創9：12-17 イザ29：6 王上17：20-24

Amazing grace! How sweet the sound  
詞 : John Newton, 1725—1807

AMAZING GRACE (NEW BRITAIN)  
曲 : Virginia Harmony, 1831

1 くすしきみめぐみにわれをすくい、  
2 おそれおそええば主の身は  
3 おそれが主の身は  
4 わが主の身は  
5 この身は

まよいしこの身も たちかえりぬ。  
おそれを信仰に 変えたまいし  
わが主のみ恵み とうときかな。  
思えば過ぎにし すべての日々、  
苦しき悩みも またみ恵み。  
わが主のみ誓い 永遠にかたし、  
主こそはわが盾、つきぬ望み。  
この身はおとろえ、世を去るとき、  
よろこびあふるる みくに生きん。

- 1 くすしきみ<sup>めぐ</sup>み<sup>すく</sup>われを救い、  
まよいしこの身も たちかえりぬ。  
2 おそれを<sup>しんこう</sup>信仰に <sup>か</sup>変えたまいし  
わが主<sup>しゅ</sup>のみ<sup>めぐ</sup>み<sup>み</sup> とうときかな。  
3 <sup>おも</sup>思えば<sup>す</sup>過ぎにし <sup>ひび</sup>すべての日々、  
<sup>くる</sup>苦しき<sup>なや</sup>悩みも <sup>めぐ</sup>またみ<sup>み</sup>恵み。  
4 わが主<sup>しゅ</sup>のみ<sup>ちか</sup>誓い <sup>とわ</sup>永遠にかたし、  
<sup>しゅ</sup>主こそはわが盾、<sup>たて</sup>つきぬ<sup>のぞ</sup>望み。  
5 この<sup>み</sup>身はおとろえ、<sup>よ</sup>世を去るとき、  
よろこびあふるる <sup>くに</sup>み<sup>い</sup>くに<sup>きん</sup>生きん。

アーメン。